

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	岐阜県大野郡白川村	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	白川村文化遺産活用観光マネジメント事業 実施計画	【計画の改善時期】 平成 28年度	
4 実施計画期間	平成 30 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>白川村世界遺産マスタープランを踏まえ、次の事業を実施する。</p> <p>(1) 白川村茅文化調査研究事業</p> <p>白川村では世界遺産集落の永続的な保存管理を目的とした「白川村世界遺産マスタープラン」(平成22年12月)を策定した。このマスタープランでは「1. 世界遺産の価値を高める」「2. 世界遺産の価値を伝える」「3. 世界遺産で人を育てる」の3つの柱をたて、遺産地区の抱える課題の解決を目指す。本事業は特に「世界遺産の価値を伝える」柱として文化遺産を活用した地域活性化事業を行う。</p> <p>平成30年度は白川村茅文化調査研究事業を行う。世界遺産の価値を形成する合掌造り家屋を維持するための重要な伝統資材である茅の確保は昨今村の大きな課題となっている。現在の白川村における茅の確保はそのほとんどを村外の茅業者に依存している状態であるが、以前は全ての茅を村内で自給していた。戦後合掌家屋の減少に伴って茅の確保のあり方も大きく変化し、茅を全て自給していたころの茅確保の文化は無くなりつつある。昔は全ての家が合掌造り家屋であったため、相互扶助の屋根の葺き替え制度「結」においては屋根葺きの労力の扶助だけではなく材料である茅も相互の貸し借りによって賄っていた。そのため、どの家でも自分の茅場を保有し、秋の刈り取りの季節には来春の茅葺に備え各々で刈り取りを行っていた。白川村ではそういった茅の確保を中心とした生活風習が文化として形作られてきた。それは茅を村外依存している昨今においてもかろうじて残されており、個人の茅場の茅をいまだに刈り取って維持している家も存在しており、白川村独自の茅の刈り取り手法や乾燥法など把握することができる状況にある。</p> <p>こういった状況を踏まえ、茅の刈り取りの手法や乾燥法、保管方、屋根葺き技術も含めた記録調査と過去の聞き取り調査資料の整理を再度行い、かろうじて残されている白川村の茅文化の掘り起こしと現況把握のた</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、白川村が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。</p> <p>(主な担当課、役割)</p> <p>教育委員会文化財係：過去の記録の整理や聞き取り調査先の調整等</p> <p>また、補助事業は次の団体が実施する。</p> <p>白川村文化遺産活用観光マネジメント事業実行委員会(会長：成原 茂)</p> <p>構成団体(白川村文化財保護審議会、白川村商工会等)</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 0 千円	平成30年度要望額： 2,995 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	

9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）

白川村の茅文化は白川村における世界遺産の普遍的価値を説明する重要な要素である。本調査研究の成果を広く普及啓発することで地域住民の茅文化に対する意識や関心が向上し失われつつある文化の復興を期待できるとともに、連綿と受け継がれてきた茅文化を次世代へ確実に継承できる。またそれら普及教材を英訳を含んで作成発信することによって世界中の人々に世界遺産を維持継承してきた白川村の文化の根幹を説明することができより文化遺産に対するより正確な知識を普及することができる。

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）

<p>事業概要：</p>	<p>われら紡ぐ白川郷かややねプロジェクト 平成27年度世界遺産活性化事業の支援を受けて実施した世界遺産登録20周年事業の一環として行った茅刈イベントを平成28年度、29年度も継続的に実施してきた。本事業は地元保存会「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」主催で実施するもので、村外からの茅刈人材の確保や村民のイベント参加による村内茅確保意識向上の普及啓発を目的に行っている。平成27年度は参加者数50名、平成28年度は参加者数56名、平成29年度は参加者数70名と参加者数は伸びてきており茅刈に対する意識は高まっている。平成30年度以降も継続的に実施する予定であり、今回申請の茅文化調査研究事業を併せて実施することでより一層の効果が期待できる。</p>
<p>事業概要：</p>	<p>世界茅葺会議2019日本白川村大会 平成32年度国際的な茅葺業界の組織「International Thatching Society」（国際茅葺協会）の総会が日本で開催されることが決まっており白川村をメイン会場として招致することが決定している。海外の茅葺関係者が集うこの機会に世界の茅葺文化の交流を目的に「茅葺国際フォーラム」を実施する予定である。フォーラムには村民も参加可能とし海外の茅葺文化に触れ関係者と交流を図ることで白川村の茅文化の重要性の再啓発を行いたい。今回申請の茅文化調査研究事業で作成する普及書籍をこの世界大会の参加者にも配布し白川村の茅文化を広く普及したい。</p>

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

12 担当部局

<p>地方公共団体 担当部局課</p>	<p>白川村教育委員会事務局</p>
-------------------------	--------------------



**様式 1 - 1 別紙②**

**8 (2) 実施事業の概要 別紙**

<b>事業①：</b>	白川村茅文化調査研究事業	<b>実施団体：</b>	白川村文化遺産活用観光マネジメント事業実行委員会			
<b>事業区分：</b>	調査研究	<b>事業期間：</b>	平成 30 年度	～	平成 30 年度	
<b>事業概要：</b>	白川村における世界遺産の普遍的価値を説明するうえで重要な要素である茅文化の記録保存と普及啓発を目的とした調査研究事業を行う。					
<b>評価指標区分：</b>	・その他				(具体的な指標は次のとおり)	
<b>具体的な指標：</b>	住民意識調査の「白川村茅文化に誇りを感じる」割合					
<b>目標値：</b>	【現状値】 平成 30 年度 0 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 70 %					
<b>進捗状況：</b>	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
0 %	0 %	50 %	60 %	70 %	70 %	
0%	0%	71%	86%	100%	100%	